

平成26年8月1日

情報モラル講演会を終えて

明和小学校

教頭 佐々木 朗

1 講演会概要

- ・講習会名 檜山情報教育研究会「情報モラル」講演会
- ・主催 檜山情報教育研究会
- ・後援 乙部町教育委員会 乙部町学校教育研究会
- ・日時 平成26年7月31日(木) 午後3時～午後4時30分
- ・場所 乙部町民会館青少年研修室
- ・内容「情報機器を取り巻く子どもたちの現状とSNSの危険性」
講師 本谷 聡 函館市立港中学校教諭
- ・参加者 乙部小4名 栄浜小2 明和小4 乙部中3 教育委員会6 厚沢部江差各1

2 内容

○子どもたちのケータイ・スマホ所有率

中学生になると所持率が急増し、中3女子では9割、男子でも8割近い。クラスに持っていない子が何人かいる程度である。一般的に、3割を超えたあたりで、なし崩しに全員に広まっていく物である。

○利用時間

スマホを持ち始めた中1に比べて中3は、3時間以上利用している割合が急増している。特に除しでは、3時間から4時間の利用者が全体の40%ほどになっている。

○T W I T T E R

- ・140字のつぶやきであり、操作がシンプル、写真や動画も可能、匿名も可能、多くの人に見てもらえる。
- ・中学生のおよそ半数が利用（女子の方が若干多い）
- ・写真投稿でトラブルになる。他人の写真、迷惑行為の写真は厳禁である。
- ・コンビニの冷凍庫に入った写真などを掲載したことで、社会的にも大問題になっている。一度発信した情報や写真は取り戻すことができない。

○F A C E B O O K

- ・中3男子で約3割が利用

- ・日記には写真や動画など簡単に掲載可能
- ・公開する範囲を決めることができる。
- ・「いいね」で思ったことを共有
- ・GPSと連動したサービスで思わぬトラブルへ。スマホで撮った写真にGPS情報がついていると、撮影場所が特定される。顔写真を特定するソフトもある。

○LINE

- ・中学生が学年を問わず（中1男子を除く）、9割以上が利用。
- ・簡単にメッセージのやりとりができる。
- ・相手がメッセージを読んだか確認できる。（既読）
- ・好きな相手とグループを作りその中で会話ができる。
- ・グループは複数作ることができる。
- ・「スタンプ」がかわりいので女子に人気（無料のもの、有料のもの）
- ・IDにより携帯電話番号やメアドを公開しなくても情報のやりとりができる。
- ・子どももたちも普通に10以上のグループに入っている。クラス、部活、女子だけ、仲間内だけなど。
- ・LINEの問題点1 勉強しながらチャット、食事をしながらチャット、「寝落ち」するまでチャット、既読無視による人間関係の悪化、グループの強制退会（誰でも退会させられる、誰に退会させられたかわからない）
- ・LINEの問題点2 時間の浪費による健康、学力の低下 複数のグループでのトラブル(こっちでしゃべったことが、あっちのグループに筒抜け)、売春・美人局に、IDのハッキング

○ゲーム

- ・男子は特に多く7割から8割が利用、女子は3割程度
- ・ゲーム自体は無料
- ・アイテムは有料
- ・連続して何時間もできないようになってきているものが多い（時間になったらやらなければならないという意識、お金を払うと待たなくてもできる）
- ・ネット上のゲーム仲間と協力や競い合う
- ・ゲームの問題点 ゲームに夢中になって勉強が手につかない ついお金を払ってアイテムを購入してしまう。

○LINEでのいじめの仮想画面 <http://linelog.jp/>

Honoka とレイと、アキナの会話

LINE上でHONOKAとレイは、アキナに自分から死ぬと言うように執拗に迫る。そのやりとりを再現している。

○中学生とスマホのこれから

- ・時間、場所、やりとりの内容を十分に考えることができるか。
- ・今やるべきこと、今やってはいけないことの区別がつくか。
- ・ケータイに縛られない自分でいられるか。

○新聞記事より

- ・スマホの所持率、小学生 38%、中学生 55%、高校生 88%。使い始めてからの感情饒辺かとして「誰かとつながっていないと不安」「ネットの利用で気分が落ち込んだり、自分が嫌になったりする。」女子高生は、SNSで友だちと連絡を取り合っており、話題に乗り遅れたくないという気持ちが強いのではという分析。
- ・10代、20代の若者は、LINEの利用時間が去年のほぼ2倍となり、メールと逆転した。
- ・道内では、昨年度のネット性犯罪が最多となり18才未満の子が82名も巻き込まれている。
- ・出会い系（LINEのIDを交換するなど）を制限するフィルタリングで社団することができるが、友人とのやりとりをするため、保護者にせがんで、制限を解除させてしまう例が多い。
- ・小中学生の42%が直接は言えないことも携帯電話やメールなどを通してなら言えると回答している。
- ・女子中学生の7割以上が自分に自信がないと答え、男子中学生の約5割を大きく超えている。
- ・スマホを高校生の兄弟に持たせたことにより、家の中が静かになった。持たせたことにしていると母親。
- ・ネット依存を治療している精神科医のもとへは、年々患者が増え、今年1月20人ほどの新患が来院する。原因の7割がLINE。平均年齢は17.8歳。女子が多い。症状としては、睡眠時間を削ってネットにはまり、昼夜逆転生活になる人が多い。学校に行けず成績が下がってしまい、不安になった親がまず、受診する。親は同様せず、急に取り上げたりすると返って逆効果となる。
- ・対策としては、「スマホを使うデメリットを紙に書いて持ち歩き、スマホを使う時に紙を見る」「スマホで暇つぶしをしない」「他人のながらスマホをみて、自分の書こう悪い姿を想像する」「利用記録をつけて使いすぎに注意する」などを挙げている。親は、子どもに依存は病気なんだとわからせ、本人が『南とかしなれば』と思うまで話し合うことが大切」とネット依存予防サイトの代表。

- ・LINEは、若者の間では早く返すのが礼儀。常につながっているということのを重要視する。LINEのトラブルは小学校4年生でも起きている。
- ・昔と違って今はいじめが見えにくくなってきている。
- ・ある学生が飲食店で調味料の容器の先を鼻に入れて撮った写真をツイッターに載せたところ、個人が特定され、店から損害賠償を求められ、さらに退学になったという事例もある。「ネットに載せれば全世界で見られるという認識が必要」
- ・熊本の中学校では、全学年の学級委員が集まり、子ども達自身がスマホルールを作った。子どもたち自信も寝不足などから、必要性を痛感していた子どもが多かった。

ルール1 健康を守ろう

- ①10時以降は情報通信をしない。
- ②寝るときは極力電源を切って返信や投稿をしない。

ルール2 友情を守ろう

- ①見た人が傷ついたり不快感に感じたりする言葉は使わない。
- ②悪意のあるグループを作らない・入らない。
- ③相手のみになって考える。

ルール3 プライバシーを守ろう

- ①個人情報やネットに載せない（画像・氏名など）
- ②誰にでも見せられる情報・言葉しか書き込まない。
- ③知らない人からの書き込みは無視する。

3 感想

- ・小中学生には、「必要がない」という指導は継続して続けていくべきであろう。
- ・「持つことを許可していないから、ルール作りは不必要」では通らない。
- ・スマホだけではなく、パソコン、ゲーム機器などインターネットに接続することができる情報機器について、その対応を考えていく必要がある。特に、デスクトップパソコン以外は自分の部屋に持ち込めるという点では、別途考える必要がある。
- ・情報機器を親が持たせる場合は、しっかりとルールを作ることは、最低の基本線である。また、約束を守れない場合は、なし崩しになる前に、取り上げるなどし、もう一度リセットし、親子での話し合いを大切にすることが大切である。
- ・乙部町ではデッドラインとして午後11時、通常は9時でコミュニケーションを終わらせるという町のルールをどうやって啓発し、町民のルールにして

いくつかの課題である。